

「第3回塩田平の文化財クイズ」出題の文化財に関する解説資料

第1問の正解 男女神が酒をくみかわしている道祖神は、奈良尾の夫婦道祖神

- 東奈良尾上組の集会所前にある。
- 男神が右手に徳利を持ち、女神の持つ杯に酒を注ごうとしている。高さ60cm。
- 安永6年(1777)に造られた、年代の明らかなものでは上田市で2番目に古い。

※他の選択肢の道祖神

○ 野倉の夫婦道祖神

男女神が手を握り、互いに肩に腕をまわしている。眼を細めて笑みをたたえているところがほほえましい。明治期の作と思われる。

○ 平井寺の夫婦道祖神

男女神の左右に酒器と盃が彫られている。洪水で流出したが、昭和61年(1986)の平井寺トンネル取付道路等の工事中に土中から掘り出され、流出後の天明4年(1784)に新設された道祖神と並べて安置されている。それより前の古い建立といえる。

○ 穴平の道祖神

野倉の穴平地区のある大型の道祖神。「道祖神」の書体が特徴的。



奈良尾



野倉



平井寺



穴平

第2問の正解 「大六のケヤキ」の名前の由来は、「大六天」

- 石神にある樹齢800年以上と推定される大ケヤキ。
- 高さ30m、目通り幹囲11.7mで、ケヤキでは県下最大。
- 根元に「大六天」の祠が祀られており(赤マル内)、これが名前の由来。大六天は、弁財天や毘沙門天、帝釈天などと同じ「天」という神様
- 源頼朝から塩田庄の地頭に任じられた惟宗忠久(後の島津忠久)が植えたと伝えられ、「地頭木」とも言われている。



第3問の正解 民話「朝日長者と夕日長者」で知られる集落は野倉

- 野倉の「夕日長者」の娘の夢枕に北向観音が立ち「畑の地下に宝がある」と告げたが父親は信じなかった。その後、夕日長者の家では火災にあたり、お金が無くなるなどしたため、畑に桑を植えて養蚕をすることになった。畑を耕すとたくさんの銭が入った桶が見つかり、大勢の人が見に来て家運も上がった。明治31年(1898)のこと。
- その銭で龍を描いた額を作り、北向観音に奉納した。現在、お堂の奥の正面右上に掲げられている。



第4問の正解 「びらんじゅの道しるべ」の右方向の行き先は「すわ大や」

- 別所温泉から上田市街地に向かい、山田方面への分岐点に道しるべがあり、「左 上田道 右 春わ(すわ) 大や」と刻されている。山田峠を越えて丸子・大屋・諏訪方面へと続く。
- 建立年代不明。
- 近くに「比蘭樹(びらんじゅ)」の木がある。道標は要所にあり、古くから道案内役だった。



第5問の正解 「要石」が設置されるきっかけになった地震は善光寺地震

- 上本郷の武高国神社の社殿西側に「要石」(かなめいし)が祀られている。
- 弘化4年(1847)善光寺大地震があり、1か月以上揺れが続き、塩田地域も大被害を受けた。このため、塩田中の村が相談し、地震鎮めのため、鹿島神宮の分霊を勧請して武甕槌命を合祀し、この大石を社殿の横に据えた。
- その後、明治26年(1893)に木製の柵を石造りにし、要石設置の経緯などを記した「周柵修繕碑」を設置した。碑文は、作家久米正雄の父由太郎(当時上田尋常高等小学校長)。
- 石造りの柵には、各村の名前が彫ってある。



第6問の正解 「紙本花鳥人物屏風」があるのは龍光院

- 曹洞宗。本尊は釈迦如来。塩田北条氏初代北条義政の菩提を弔うため、子の国時が弘安5年(1282)に開創。
- 六曲一雙の1枚の絵の大きさは縦135cm・横56cm。本堂に飾られている。
- 絵師の狩野永琳(えいりん)は、西前山・保科弥右衛門の二男、明和4年(1767)生まれ。狩野高信の門に入り、上達が早く文化5年(1808)師の代理で京都御所で龍の絵を制作中に客死したと伝えられている。
- 屏風は、両端に花鳥、その内側に中国の高士人物二人を向き合わせ、中央の二幅はともに同じ季節の草花を描き、鳥や蝶を添えている。



※他の選択肢の寺院

- **安楽寺** (別所温泉)
曹洞宗。本尊は釈迦如来。臨済宗の僧樵谷惟仙(しょうこくいせん)により、建治2年(1276)信州最古の禅寺として開創。八角三重塔は日本で唯一現存する八角形の塔。長野県の国宝第1号。
- **法樹院** (舞田)
浄土宗。本尊は阿弥陀如来。文治元年(1185)渋谷土佐入道昌順又はそのゆかりの者が開創。昌順の幼名をとって「金王庵」と呼ばれた。
- **青龍寺** (柳沢)
慶安4年(1651)村中が開基となり浄土宗の寺として開創。本尊は阿弥陀如来。明治時代に無住となり、その後、学校としても利用された。令和4年(2022)に浄土宗の寺としては廃止。

第7問の正解 風穴は、蚕の卵（蚕種）を貯蔵するためのもの

- 風穴は、山の斜面の岩石が崩落した崖錐(がいすい 円錐形状に堆積したもので、外気が岩石群内に入って冷やされ、下方に吹き出ることを利用した「天然の冷蔵庫」。
- 明治から大正期、当時盛んだった養蚕業で、蚕種の低温保存に利用された。
- 独鈷山風穴は、龍光院から約400m南南東、標高約700mの所にある。丸子町の蚕糸・製糸業者工藤善助や西塩田村 福田俊次郎、中塩田村 矢幡利金太が創設。
- 氷沢風穴は、別所温泉氷沢の三島神社の上方。明治10年(1877)以前からあり、さらに明治27年(1894)に養蚕家倉沢運平らの指導で築かれ、蚕種を貯蔵した。平成20年(2008)に復元された。



独鈷山風穴



氷沢風穴

第8問の正解 佐久間象山が書いた五反幟がある神社は、五加八幡社（五加）

- 祭神は誉田別命(ほんだわけのみこと 応神天皇)、八縣宿弥命(やあがたすくねのみこと)
- 「五反幟」は、古い幟が破損したため、文久2年(1862)、佐久間象山に揮毫を依頼し再造。
長さは11.97m。「五加洪福村」「八縣明禊祠(やあがためいいんのほくら)」と墨書。
- 神社入口にある大石灯籠は上田市指定文化財。高さ8mで県下最大。明治31年(1898)竣工。
竿石に「修善生洪福」の碑文。佐久間象山の妻の兄である勝海舟の揮毫。



五反幟



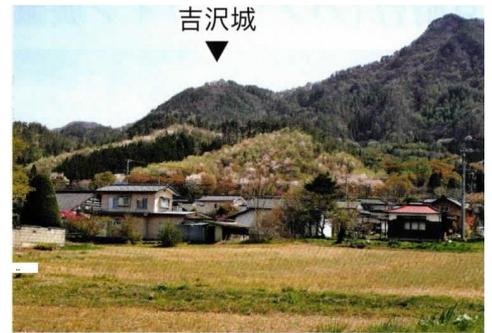
大石灯籠

※他の選択肢の神社

- **生島足島神社**（下之郷）
生島大神と足島大神を祀る。平安時代の公文書「延喜式」では「名神大社」の格付。境内に、建御名方命(たけみなかたのみこと)を祀る摂社諏訪社、県宝の歌舞伎舞台、国の重要文化財である武田信玄の願文など文化財が多い。
- **保野塩野神社**（保野）
祭神は塩垂津彦命(しおたるつひこのみこと)、建御名方命、祇園天王(ぎおんてんのう)。毎年7月に行われる祇園祭は450年以上続く上田市指定無形文化財。
- **前山塩野神社**（西前山）
祭神は素戔鳴尊(すさのおのみこと)、大己貴尊(おおなむちのみこと 大国主命)、少彦名尊(すくなひこなのみこと)。拝殿は、県内で諏訪大社とここだけの2階建ての「楼閣造」。本殿の龍や雲形の彫刻が見事。

第9問の正解 吉沢城跡の場所は地図の①

- 安曾岡山の北東の支嶺・城山(じょうやま or じょうのやま) 山頂にあり、標高 781m、急峻な道を登ったところにある。
- 鎌倉末期に造られたと思われる山城。戦国時代にかけて村上氏の武将福沢氏に仕えたとされる吉沢民部之介(みぶのすけ)が城主。
- 塩田城の東側を防御する小規模な城。本丸があったと思われる頂上は東西 24m、南北 8m ほどの平地で、そのすぐ下に今も空堀や郭(くるわ)の跡が残されている。



(右)安曾岡山 (中央)城山

第10問の正解 「真田幸村公隠し湯」と言われているのは石湯

- 泉質・効能 単純硫黄泉で無色透明。慢性皮膚病・切り傷など。飲用にて糖尿病・痛風・便秘など。
- 伝承 その昔、牛が岩の上から谷に落ち、四足を損じ湯に入り、治ったことから名づけたと言う説と、岩間より湧いていたので石湯になったともいわれる。
- 池波正太郎作『真田太平記』で幸村が女忍者お江と入湯したのもこの温泉であった。入口の標石の「真田幸村公隠しの湯」は池波正太郎筆。

※他の選択肢の別所温泉の外湯

○ 大湯

泉質・効能 単純硫黄泉、無色透明。効能は慢性皮膚病、切り傷、婦人病、糖尿病。飲用にて糖尿病、痛風、便秘など。

温泉のいわれ 1181年木曾義仲の愛妾・葵の前が入浴し「葵の湯」となる。1277年北条義政が塩田を領した時入湯し北条湯となり、その後、大炊御門大納言が入浴して大湯と改める。

○ 大師湯

泉質・効能 単純硫黄泉で無色透明。慢性皮膚病・切り傷など。飲用にて糖尿病・痛風・便秘など。

伝承 天長2年(825年 平安時代) 淳和帝が入湯して永寿湯、その後慈覚大師円仁が北向観音建立のために来た折、好んで入湯し病が治り、大師の像を刻み安置し、大師湯となる。

○ あいそめの湯

日帰り温泉。内風呂、各種露天風呂、岩盤浴、福祉風呂、サウナ、ホール、休憩室、小部屋、売店などがある。

昭和47年(1972)、「愛染閣」として開設。平成20年(2008)「あいそめの湯」として旧別所学校跡地に移転新築。



石湯



大湯



大師湯